

廃校の県立高校の体育館等を改修して、半額の事業費で市庁舎整備を実現(氷見市)

(1)事業概要

老朽化した市庁舎の再整備は、防災・減災の観点からも重要な地域課題の一つである。

氷見市は、1968年と59年に建築された庁舎の老朽化(劣化、耐震性能等)、津波浸水想定区域内にあることなどの課題を解決するために、旧県立高校の跡地(土地・建物)を活用した改修・再整備事業を実施した。

国の補助事業などを活用し、総事業費19億円のうち、市の実質負担額は9億円に抑えることができた。

(2)特徴・ポイント

- ・廃校となった県立高校の跡地を活用することにより、建て替えによる整備と比較して事業費をおよそ半額程度に抑えることができた
- ・既存の公共施設の有効活用という視点からも、廃校となっていた土地・建物が、市民が集まる施設として再生することは大きなメリットがある
- ・民間の斬新なデザイン、アイデアを採用し、高い快適性を効率的な維持管理性能を両立させた
- ・分散していた役所機能が集約化され、市民の利便性が向上



(写真)氷見市役所HP

■事業の主な内容

(出典)ケンプラッツ、氷見市HPより

項目	内容
事業名	氷見氷見市庁舎移転整備工事
発注者	氷見市(富山県)
事業内容	<p>既存建築物の名称: 富山県立有磯高等学校 既存建築物の竣工年: 1996年(第1体育館)、91年(第2体育館)、70年(記念館)、71年(格技場)、66年(校舎棟) 工事前の主用途: 校舎 → 工事後の主用途: 庁舎 地域・地区: 準住居地域: 建蔽率: 21.08% (許容60%) 容積率: 37.18% (許容200%) 前面道路: 北東14.0m、南東4.0m、西5.2m、北20.0m 駐車台数: 339台 敷地面積: 2万746.91m² 建築面積: 4374.37m² 延べ面積: 7890.31m²(うち増築部分493.26m²) 構造: 鉄骨造(エントランス棟、新設)、鉄骨鉄筋コンクリート造(旧第1・第2体育館)、鉄筋コンクリート造(旧校舎棟、旧記念館)、鉄骨造一部鉄筋コンクリート造(旧格技場) 階数: 地上3階 高さ: 最高高さ17.235m、主な階高5.000m、3.800m</p>
事業者	<p>設計・監理者: 山下設計・浅地建築設計事務所JV 設計協力者: 稲菱テクニカ(サイン計画) デザインアドバイザー: 島津環境グラフィックス 施工者: 名工建設、氷見土建(外構)</p>
事業方式	直営(既存公共施設の有効活用)
事業期間	<p>設計期間: 2012年12月～13年9月 施工期間: 2013年10月～14年4月 供用開始: 2015年5月7日</p>
<p>移転整備費用 総事業費19億円 (うち市実質負担9億円) 19億3876万3000円(予算ベース、用地取得費約3億円を含む)</p>	